

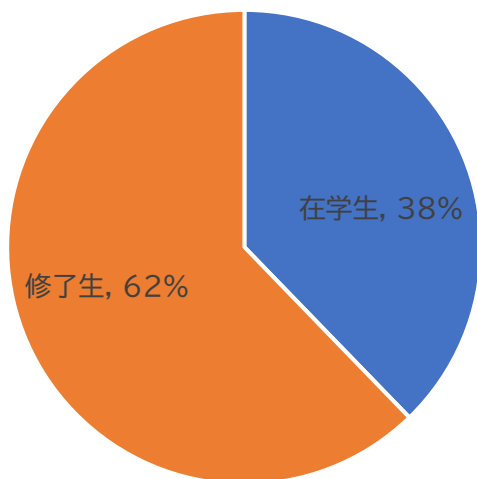
社会人向け 大学院に対する意識調査 報告書

回答者の属性

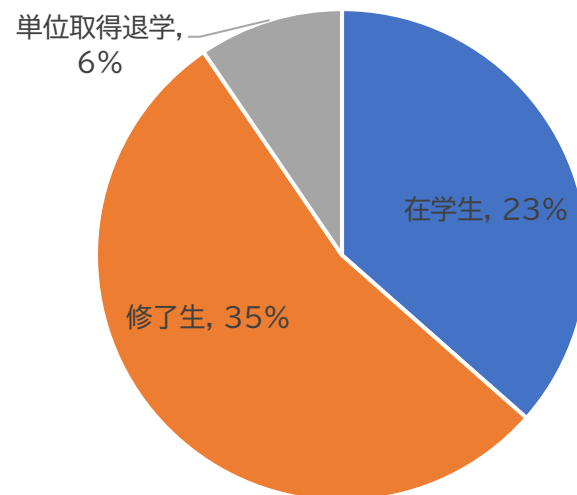
回収結果と回答者の属性

回答回収数 : 490名

●修士 392名
在學生 148名
修了生 244名



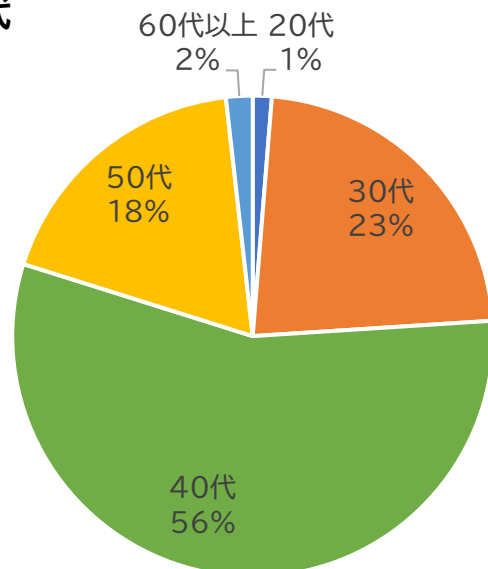
●博士 98名
在學生 58名
修了生 34名
単位取得退学 6名



回答者の属性

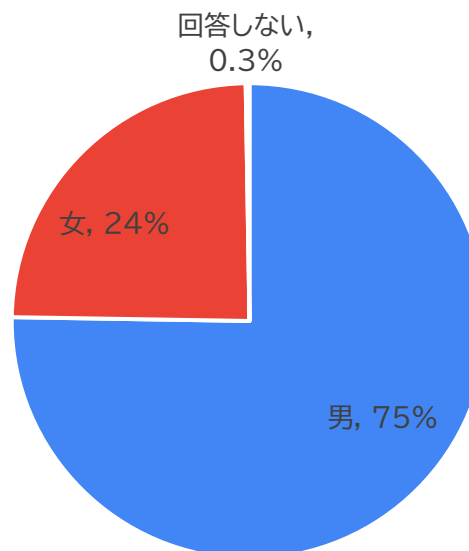
修士
(N=392)

●年代



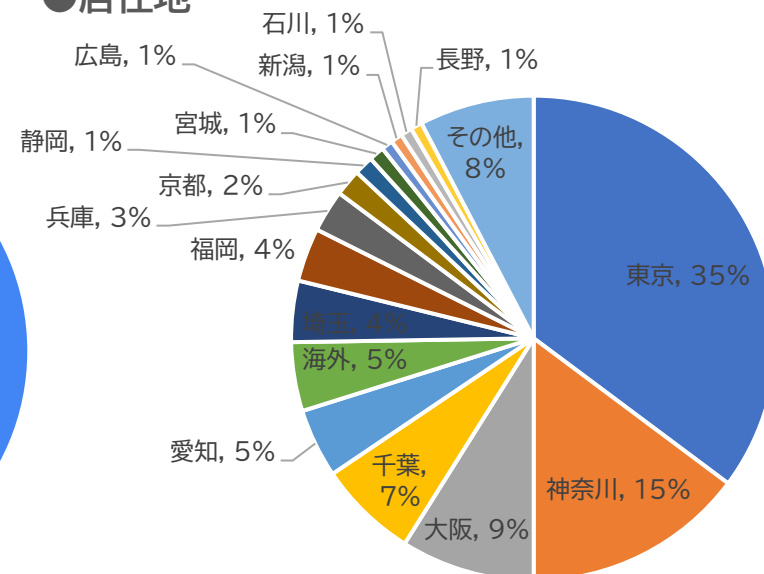
20代	5名
30代	89名
40代	219名
50代	72名
60代以上	7名

●性別



男	295名
女	96名
回答しない	1名

●居住地



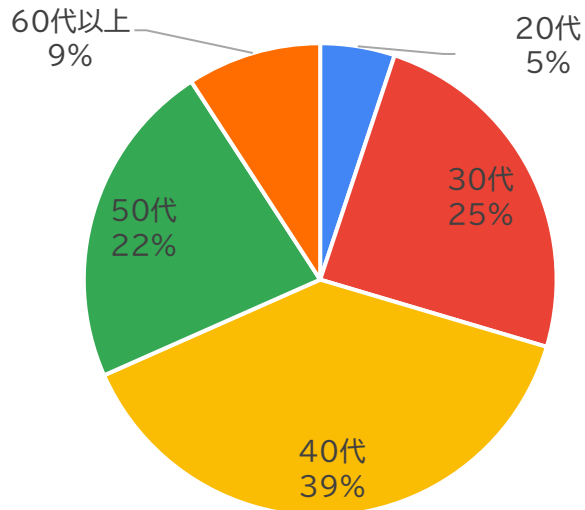
※その他(各2名、1名)
茨城、沖縄、岐阜、三重、山口、山梨、
滋賀、長崎、奈良、愛媛、岡山、岩手、
宮崎、熊本、群馬、香川、高知、佐賀、
秋田、栃木、福島

- ・年代は、40代が56%、続いて30代、50代が20%前後であり、ほとんどが社会人現役世代である。
- ・男女別では、男性が75%、女性が24%
- ・居住地は45都道府県にまたがっており、また5%(16名)が海外居住である。

回答者の属性

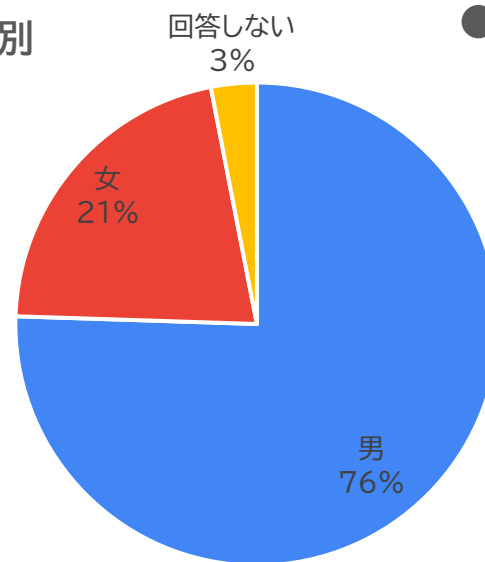
博士
(N=98)

●年代



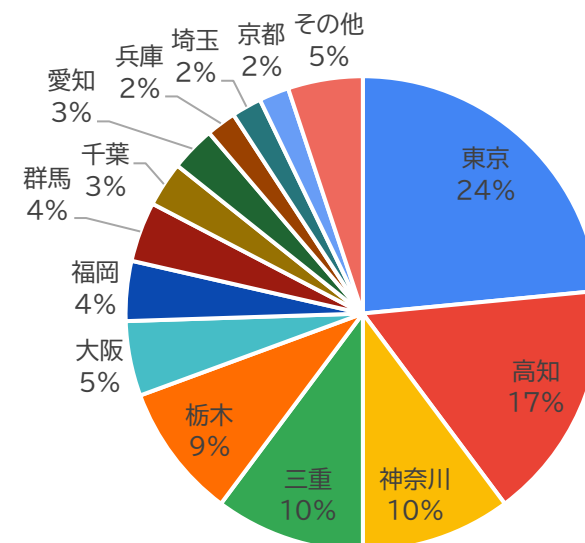
20代	5名
30代	24名
40代	38名
50代	22名
60代以上	9名

●性別



男	74名
女	21名
回答しない	3名

●居住地



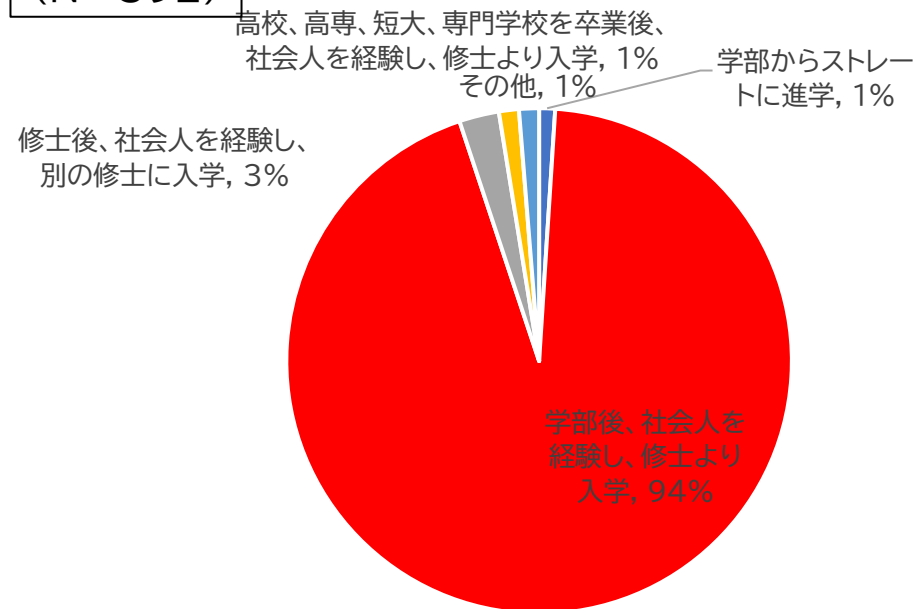
※その他(各1名)
北海道、宮城、茨城、石川、滋賀

- ・年代は、40代が39%、続いて30代、50代が20%前後であり、ほとんどが社会人現役世代である。
- ・男女別では、男性が76%、女性が21%。
- ・居住地は、18都道府県にまたがっている。

進学に関する情報

修士
(N=392)

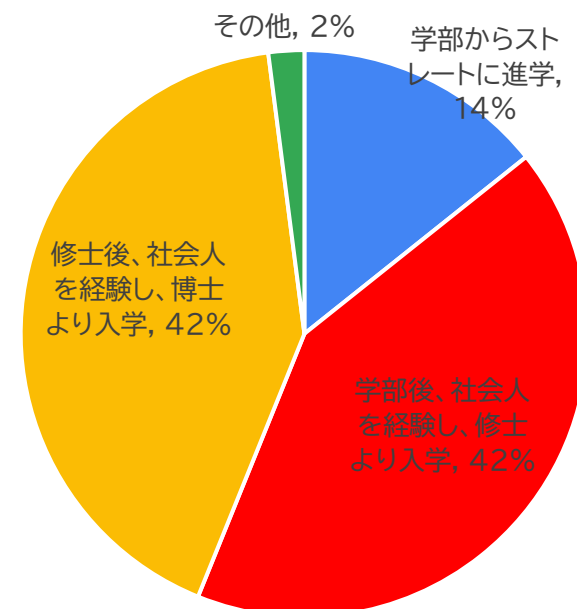
●入学ルート



- ・学部からストレートに進学 1%
- ・学部後、社会人を経験し、修士より入学 94%
- ・修士後、社会人を経験し、別の修士に入学 3%
- ・高校、高専、短大、専門学校を卒業後、社会人を経験し、修士より入学 1%
- ・その他 1%

博士
(N=98)

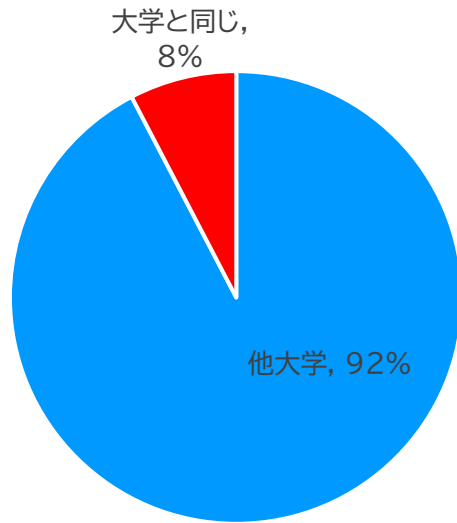
●入学ルート



- ・学部からストレートに進学 14%
- ・学部後、社会人を経験し、修士より入学 42%
- ・修士後、社会人を経験し、博士より入学 42%
- ・その他 2%

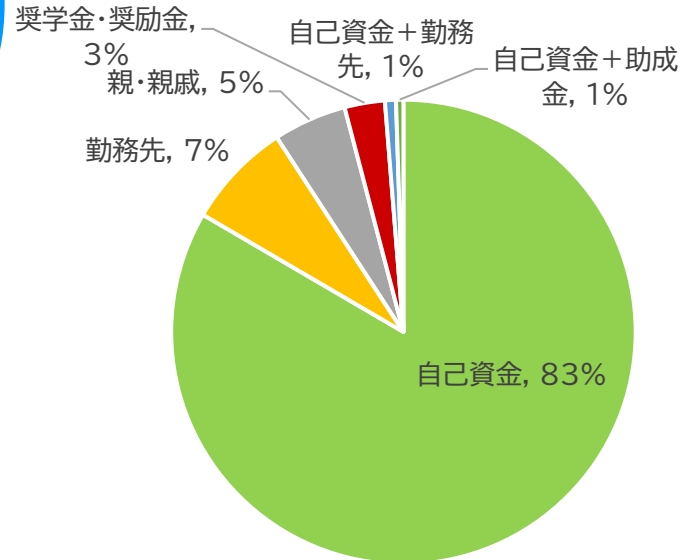
進学に関する情報②

●進学した大学院

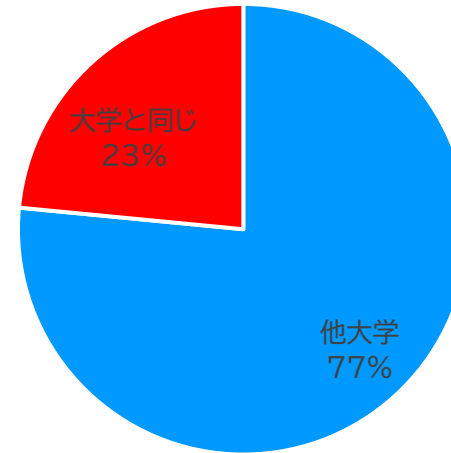


修士
(N=392)

●大学院進学・在学に係る 費用の主な出資元

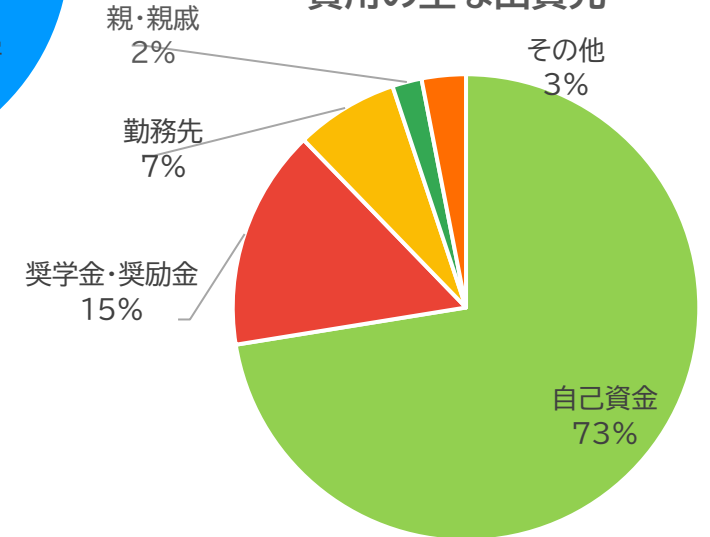


●進学した大学院



博士
(N=98)

●大学院進学・在学に係る 費用の主な出資元



- ・修士の92%、博士の77%が出身大学とは違う大学に進学している。
- ・修士の83%、博士の73%が自己資金によって進学・在学しており、勤務先資金からの入学者は7%程度にとどまることから、「学び」へのモチベーションが高いことがうかがえる。

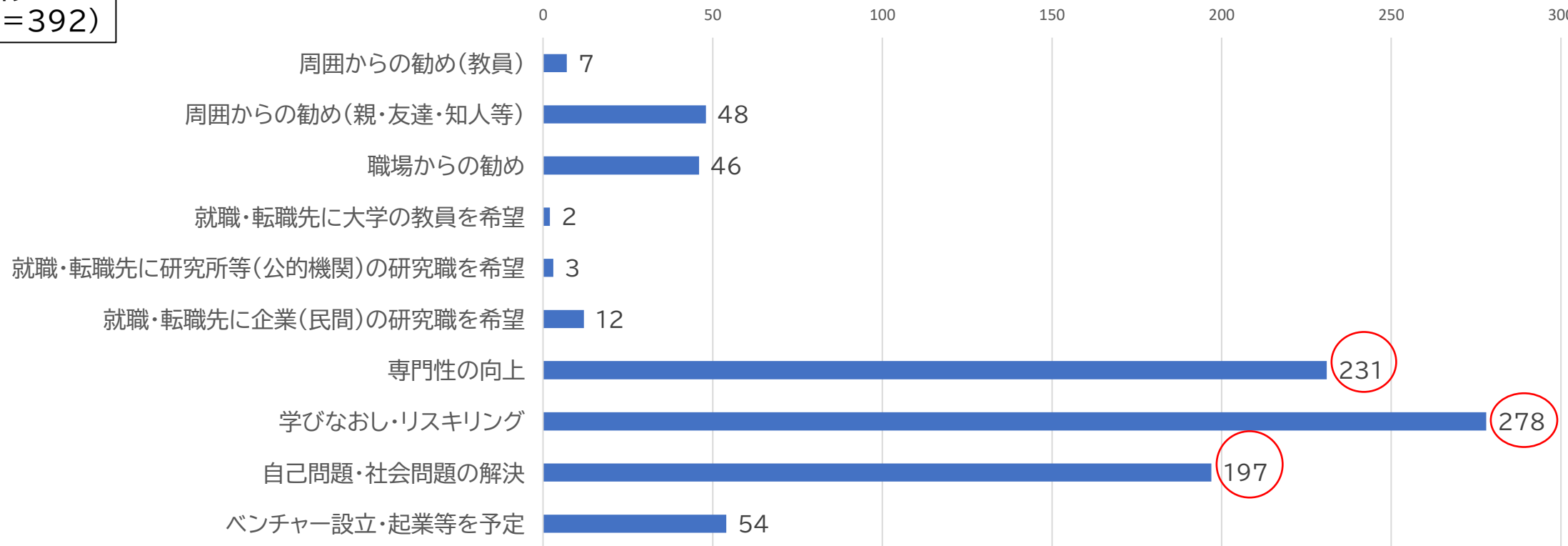
社会人大学院修学に対する意識調査

大学院進学目的 (複数回答可)

単位: 人

修士
(N=392)

● 大学院に進学した目的は何ですか



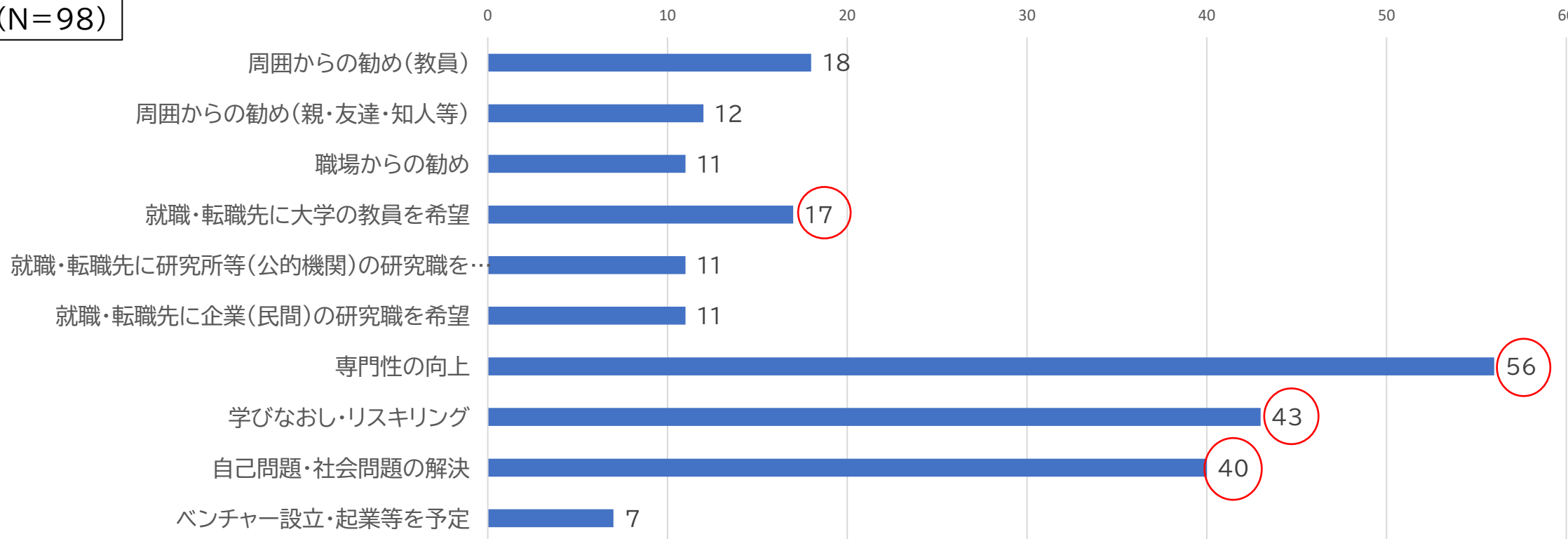
「学びなおし・リスキリング」「専門性の向上」「自己問題・社会問題の解決」を目的とする回答が多い。
また「周囲・職場からの勧め」で進学したという回答もみられる。

大学院進学目的 (複数回答可)

単位: 人

博士
(N=98)

● 大学院に進学した目的は何ですか



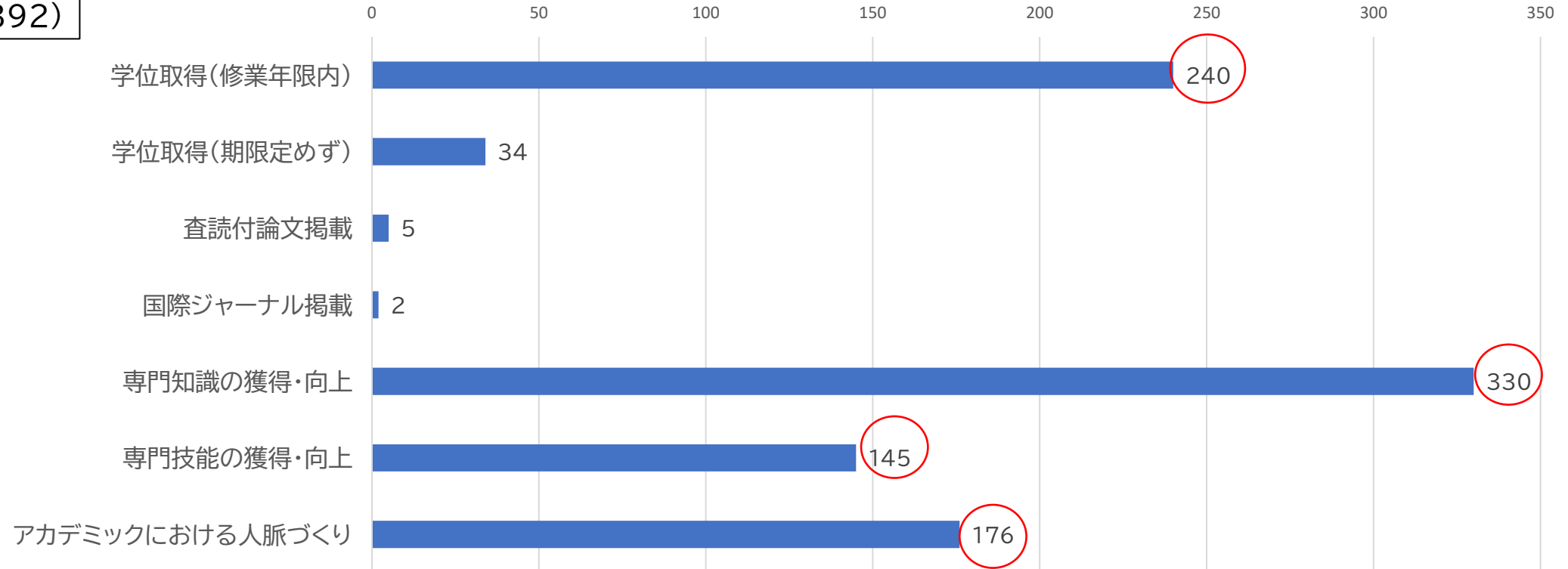
「専門性の向上」「学びなおし・リスキリング」「自己問題・社会問題の解決」を目的とする回答が多い。
また回答者の20%弱が「就職・転職先に大学の教員を希望」するためと回答している。

大学院在学期間の目標(複数回答可)

単位: 人

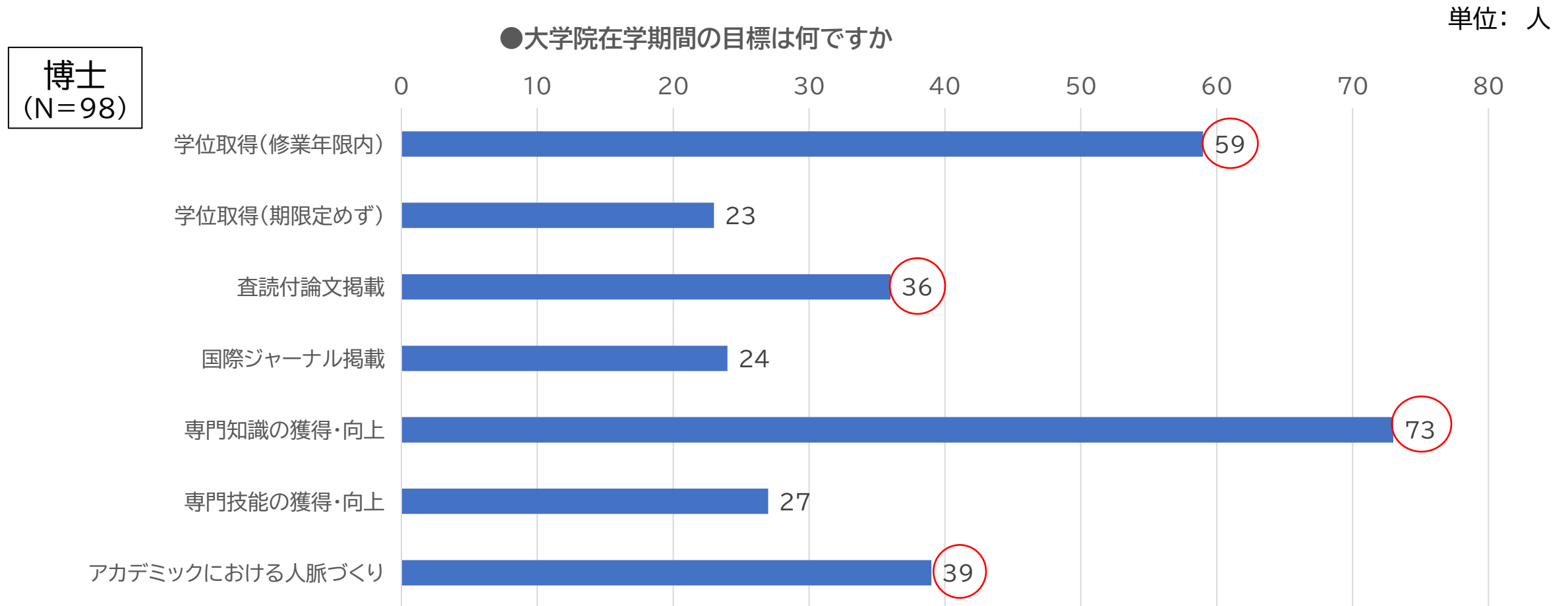
修士
(N=392)

●大学院在学期間の目標は何ですか



「専門知識の獲得・向上」「学位取得(修業年限内)」を目標とする回答が多い。
回答者の多くが経営学修士(MBA)の取得を目指していると思われる。

大学院在学期間の目標(複数回答可)

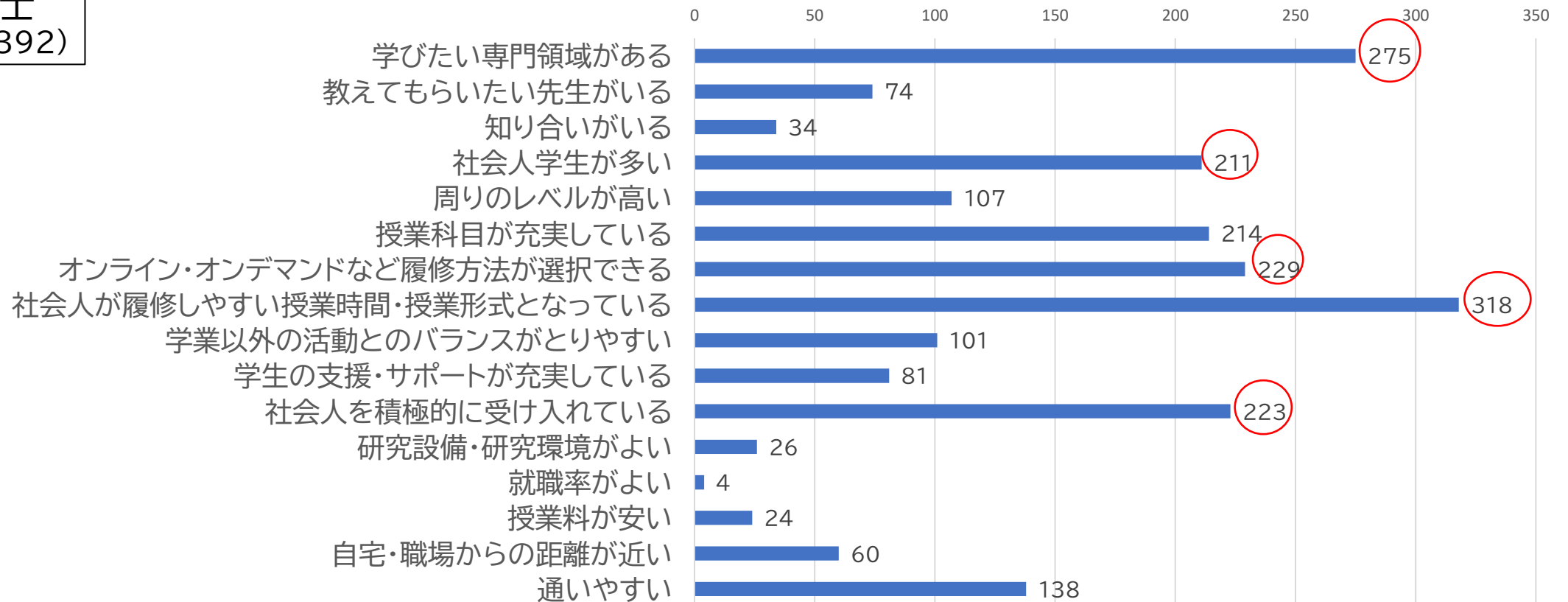


「専門知識の獲得・向上」「学位取得(修業年限内)」に続き、「アカデミックにおける人脈づくり」「査読付論文掲載」も目標となっている。

当大学院を選択した理由(複数回答可)

修士
(N=392)

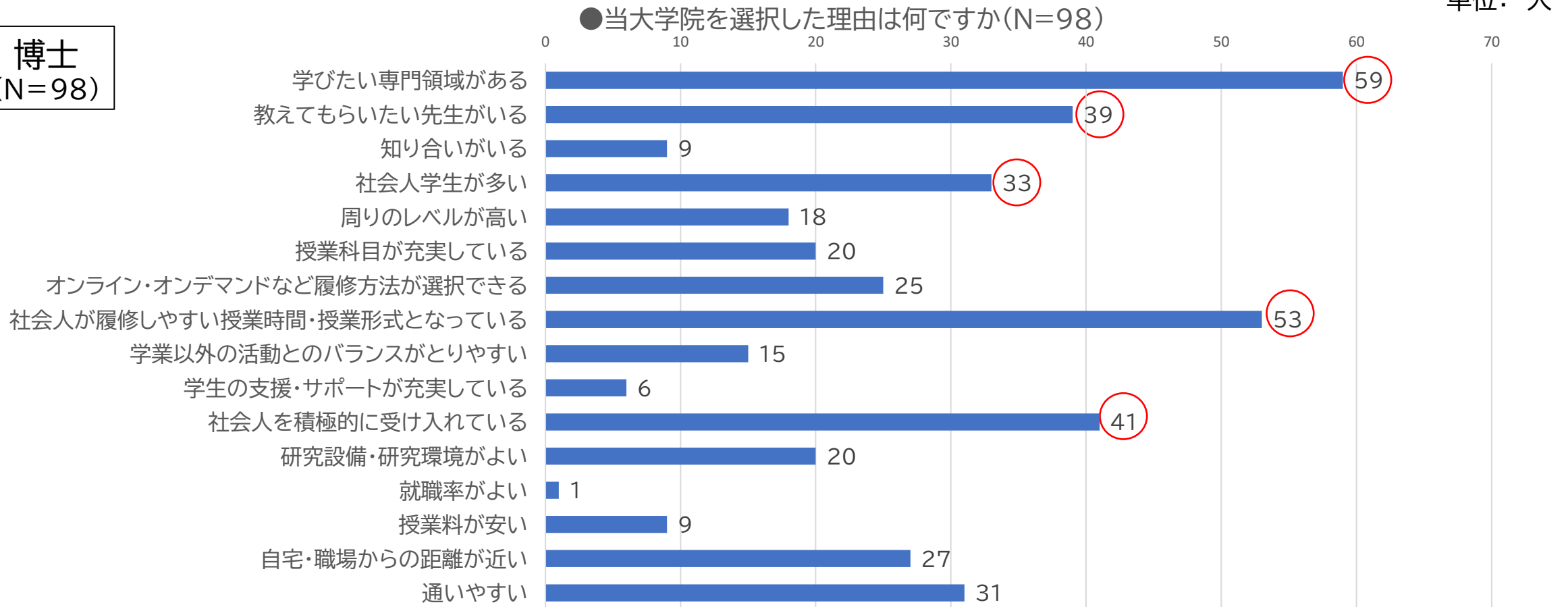
●当大学院を選択した理由は何ですか



「学びたい専門領域がある」ことはもちろんのこと、「社会人が履修しやすい授業時間・授業形式」「社会人を積極的に受け入れている」「社会人学生が多い」「オンライン・オンデマンド」等、社会人に配慮したカリキュラムや環境、履修方法が選択理由となっている。

当大学院を選択した理由(複数回答可)

博士
(N=98)

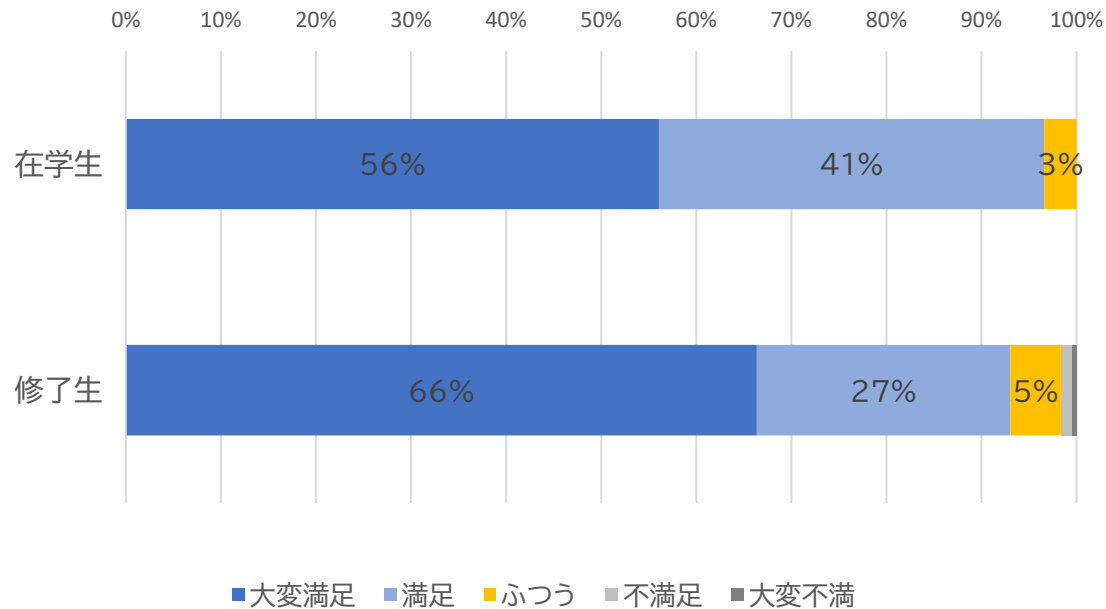


修士同様に、「学びたい専門領域がある」ことはもちろん、「社会人が履修しやすい授業時間・授業形式」「社会人を積極的に受け入れている」等、社会人に配慮したカリキュラムや環境、履修方法が選択理由となっている。また「教えてもらいたい先生がいる」の回答も多い。

大学院教育への満足度

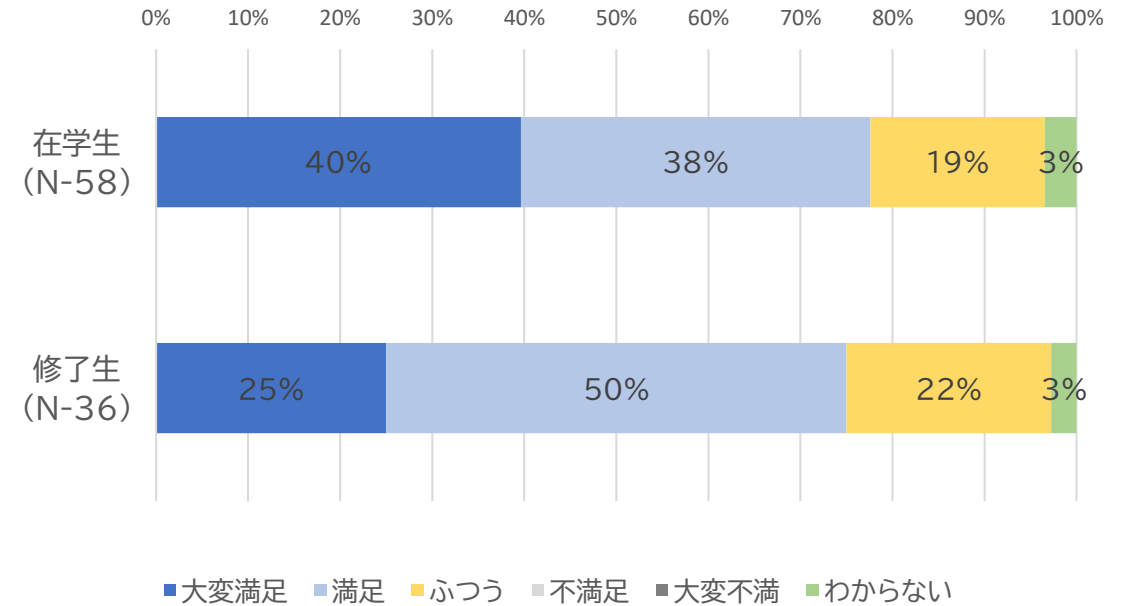
修士
(N=392)

●大学院教育への満足度



博士
(N=98)

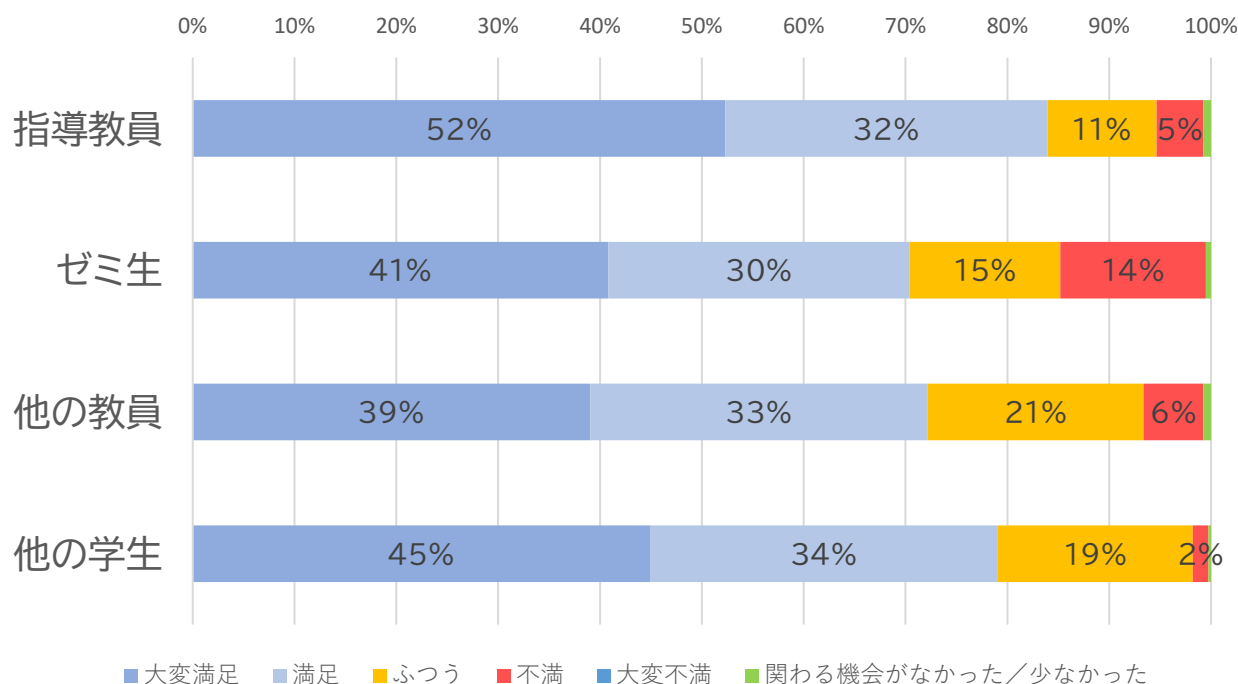
●大学院教育への満足度



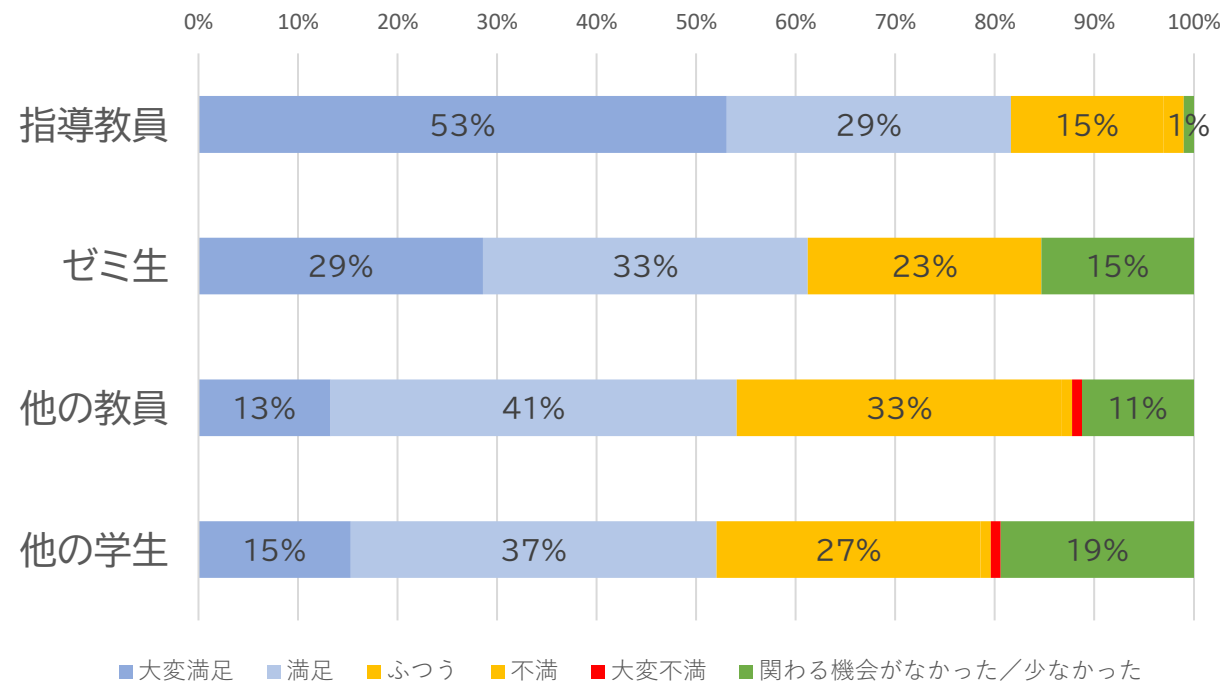
修士、博士とも、大学院教育への満足度は高く、ネガティブな回答はほとんどない。
修士では、在學生・修了生とも満足している回答は90%を超える。

教員や他の学生とのコミュニケーションや交流は？

修士
(N=392)



博士
(N=98)



修士、博士とも、【指導教員】とのコミュニケーション・交流は、約80%以上が満足と答えている。
博士で、【ゼミ生】【他の教員】【他の学生】との満足度は下がり、「関わる機会がなかった／少なかった」の回答が増えるが、研究を中心とした大学院で、ゼミ生・他の教員・他の学生との関わりが「なかった・少なかった」の回答が多いものと推察される。

大学院教育への満足度の理由(修士)

【大変満足／満足】(主な回答を抜粋)

●実務に役立つ／実践的な学び／実務経験ある講師陣(62名)

- ・今後の実務や新しいビジネス領域で活用できる知識と経験が得られた
- ・ビジネスパーソンとして生涯大切にできる知識・技能、価値観を得ることができた
- ・実務系教員が多く、経営学をアカデミックだけでなく、実例から学ぶことができた
- ・翌日の仕事から活用できる学びを得られる

●学びに加えて、ともに学んだ仲間との人脈・ネットワークができた(42名)

- ・同じ熱量の志を持った仲間ができ、視野と視点と人脈が大きく増えたから
- ・一緒に学ぶ学友のレベルが高く、色々な業界の経験者に出会える
- ・新しいことを始めてみようという自信がついた。それを支えてくれる仲間を多く作ることができた
- ・実務では交流しにくい人材と議論ができるため

●カリキュラム／学びの内容・質が良かった(29名)

- ・経営学の知識を網羅的に学ぶことができていたから
- ・独学では一生かかっても経験できない広い分野について、本業で行う新事業開発に必要なスキル・知識が手に入るため
- ・仕事の繁閑に応じて調整がきくカリキュラムや制度が整っていたこと
- ・知識、技能だけでなく、志(態度)の向上プログラムが備わっていること

●オンラインなど学びの環境が充実(21名)

- ・オンライン環境下で履修をすることができ、通学する上で必要な移動交通にかかる時間や費用がかからなかった
- ・仕事をしながらオンラインで学ぶことができ仕事や家庭の事情でクラスの振替も可能であるから

●自己成長できた／自分の志が定まった(20名)

- ・社会人としての自分のレベルに気づけたことや、意欲のある仲間ができ、勉強することへのモチベーションに繋がったことは大きな財産になりました
- ・知識、思考力、対人関係、ネットワーク全てにおいて自身の成長を感じる。また、周りの方々の刺激を受け、入学前には予定していなかった独立・起業をした
- ・学問だけでなく、志が定まった、生涯の仲間ができた
- ・今の自分の柱となっている

●新しい視点や思考が広がった(10名)

- ・圧倒的な知識量と論理的思考力、そして多くの志高き仲間を得られた。何より失敗を恐れずチャレンジしたくなる思考力が得られたことが素晴らしい。人生が大きく変わった
- ・知識だけではなく、頭の使い方が変わった
- ・ビジネス能力だけでなく、人間としての器も大きくすることができた
- ・社会における、自分の役割がわかった

●優秀な講師＋質の高い講義＋良き学びの仲間(9名)

- ・講師陣、授業内容、向上心の高い仲間がいたこと。学生同士で学び合う仕組みがあったこと
- ・①経営に関する体系的な知識を学ぶことができたため。特に経営戦略や事業戦略の専門性を高めたいと考えており十分なカリキュラムが用意されていた。②講師陣はビジネスの世界において優秀な経歴を持っており、グローバルトップで活躍していた方も多くいた。講義を受ける中で自身の仕事への態度を改めるきっかけとなったり、これまでより高い基準を据える仕事に臨むことができた。③異なるバックグラウンドを持つ生徒同士でディスカッションを行うことで、思考の幅が広がったと感じる。

●キャリアアップ・キャリアチェンジに繋がった(9名)

- ・カリキュラムがよく自分の成長に自信。卒業後のキャリアアップに大成功。
- ・過去に経験できなかった分野を最短で学べ、多様な人脈形成にも寄与したため。結果、スキルアップや昇進にもつながっていると感じます。
- ・現職で諸事情で一時的に代表取締役役に就任することになり、経営改革等を実行する上で、同校での学びを即実践に活かした

【ふつう／不満足／大変不満の意見】

- ・コロナピーク時でアクションリサーチを主な方法論とした調査・研究が頓挫した際に休学・中退・除籍以外の選択肢やトライする制度がなかった
- ・実践で役立っていないから
- ・特にすごく良いとも悪いとも思わない
- ・全然教えてもらえなかった
- ・研究内容を自分では決められず、教授が決めていた

大学院教育への満足度の理由(博士)

【大変満足／満足】(主な回答を抜粋)

●指導教員の丁寧な指導／手厚いサポート(9名)

- ・学位取得まで手厚くサポートしていただいた 丁寧にご指導いただきました。
- ・オンラインや個別で対応してくださる 指導教員の細やかなサポートと、知識の高さ、深さ。
- ・社会人をリスペクトし、共に進む雰囲気教授陣が多かった(例外あり)

●指導者が素晴らしい／幅広い分野の先生から学べた(9名)

- ・学びたい内容を指導してもらえる指導教員がいたことと、専門外の教員からも多角的な指導をいただけたことから。
- ・指導教授が研究領域の中、世界的な重鎮であり、豊富な知識と業界経験を勉強することができる。
- ・興味深い分野 幅広い分野の先生方から学ぶことができた
- ・幅広い分野の先生方から学ぶことができた

●学びに加えて、ゼミ仲間等、新たな人脈ができた(6名)

- ・多様性のあるゼミメンバーとの学びの場 ・楽しい仲間と研究に没頭できたから
- ・会社の延長では得られない知識、人脈ができたこと
- ・授業科目の内容、先生の質、動機の高い学生の環境の中、価値のある学びができていると感じている
- ・レベルの高い人材と共に学び合えるから

●専門性を高めることができた(できる)から(7名)

- ・専門性を高めることができたから
- ・講義の中で、必要とする知識を学ぶことが出来た。
- ・自身の専門外の科目について、体系的に学べるから
- ・公務と学業の両立が図れ、研究内容も充実しているため
- ・自分が働いているだけでは身に付く事が出来ない知識を得れている。

●仕事に役立つ／キャリア形成に役立つ(6名)

- ・研究を通じて、本業を行う際にも考え方等参考にすることができた。
- ・実務に応用できる知識・思考を身につけることができています
- ・学位だけでなく、実務家教員としてのキャリア形成に有益な視点を得ることができたため。

●学位を取得できた(5名)

- ・貴重な知識、経験を得ることができ、また無事に博士号が取得することができたため
- ・とにかく学位が取れた。
- ・論理的思考能力の習得よりも学位の取得が目的だったため

●視点が変わった／物事の本質を見極める力がついた(4名)

- ・仕事、世の中の景色が変わりました。
- ・通学前よりも、思考のスピードや量が向上したことを、実感できるため
- ・多くの知識を学べたことも大きいですが、物事の本質を見抜こうとする思考体力が大きく向上した。
- ・また、世の中をよくしたいと本気で考えている仲間存在は、とても刺激になり生活スタイルも良い方で激変した。
- ・視座を変えたいという動機が大きかったが、アカデミアの視点、またビジネスの現場からの教員の方による学際(学問と実際)との考えに触れて、物事のとらえ方やその深さ・広さに大きな変化があり、当初、考えていた以上の成果を経験した。また、その後の活動においても、終了年度を超えた関係が構築され、現在でも、その学びの環境は継続されている。

●論文をまとめることができた(2名)

- ・指導教官の指導の元、論文執筆がスムーズに行われている
- ・指導教員に恵まれ、自分のそれまでの研究を博士論文としてまとめることができた。

●目標を達成できた／期待していた成果が得られた(3名)

- ・目標達成(第一歩)ができたから
- ・期待していた成果等が得られたため
- ・自分の成長が感じられるから。

【ふつう／不満／大変不満】

●自発的に動くことが必要だった／もっと指導を受けたかった(6名)

- ・学習そのものは自主的に行っており、与えられるというより取得しにいくという姿勢だった
- ・大学院生ということもあり、教育を受けるというよりは自発的に動いていくことが必要だった。
- ・大学院における教育が想像と異なった もう少しきめ細やかな指導を希望するため
- ・博士後期課程における社会人のかかわり方は、授業を通じて知識を授けられるようなものではなく、内部進学生とも立場が異なる。どうあれば良いか不明であるため評価できない。

●その他(3名)

- ・博士課程における新たな学びは少なく、既知の学びを再構築することが多く、新たな学びがもう少し欲しかったことから、ふつうと回答
- ・大学院の授業の中には、本当に受講する必要があるのか意図がわからないような授業があるから。

大学院教育への満足度の理由

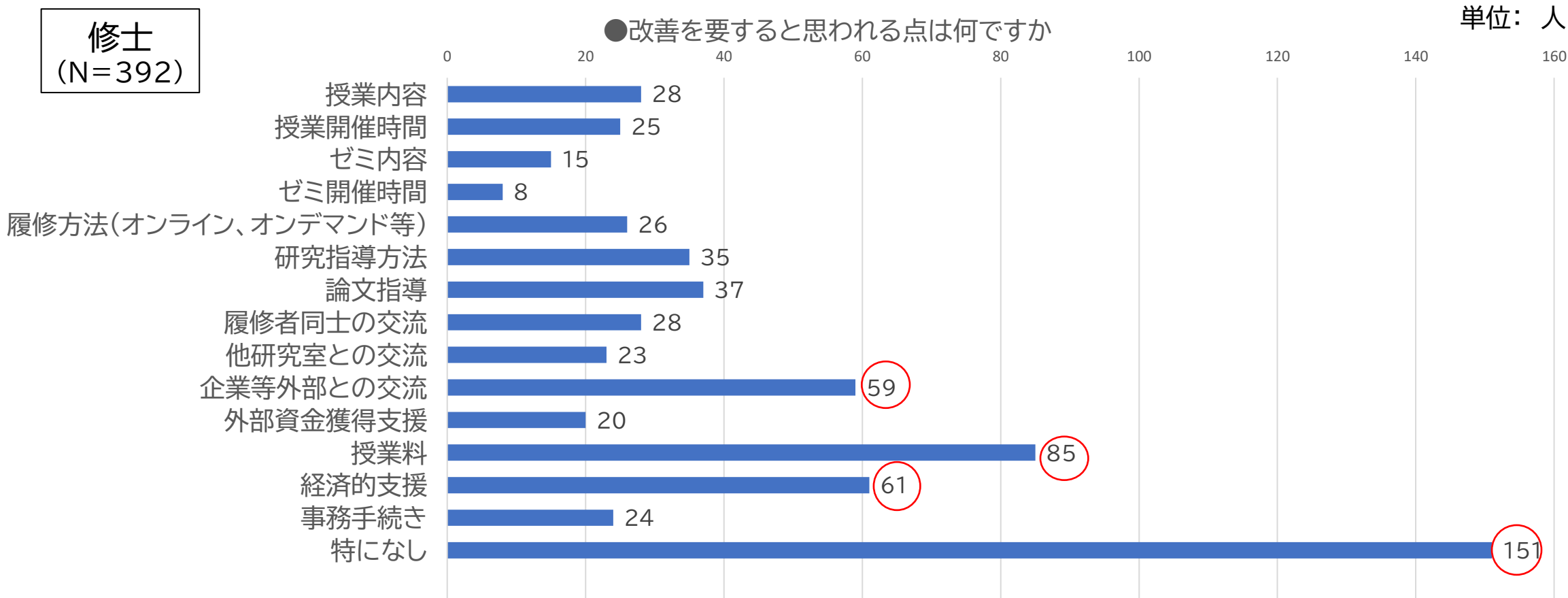
修士
(N=392)

博士
(N=98)

1	実務に役立つ／実践的な学び／実務経験ある講師	(62名)	1	指導教員の丁寧な指導／手厚いサポート	(9名)
2	学びに加えて、生涯の仲間・新たな人脈ができた	(51名)	2	指導者が素晴らしい／幅広い分野の先生から学べた	(9名)
3	オンライン等学びに必要な環境が充実	(21名)	3	専門性を高めることができた	(7名)
4	カリキュラムや学びの内容・質がよかった	(19名)	4	学びに加えて、ゼミ仲間等、新たな人脈ができた	(6名)
5	自己成長できた／志が定まった／自分の柱ができた	(11名)	5	学位を取得できた	(5名)
6	キャリアアップ／キャリアチェンジにつながった	(9名)	6	視点が変わった／物事の本質を見極める力がついた	(4名)
7	優秀な講師／質の高い講義／仲間ができた	(9名)	7	目標を達成できた／期待していた成果が得られた	(3名)
8	専門性が向上した／専門知識を学べた	(8名)	8	論文をまとめることができた	(2名)

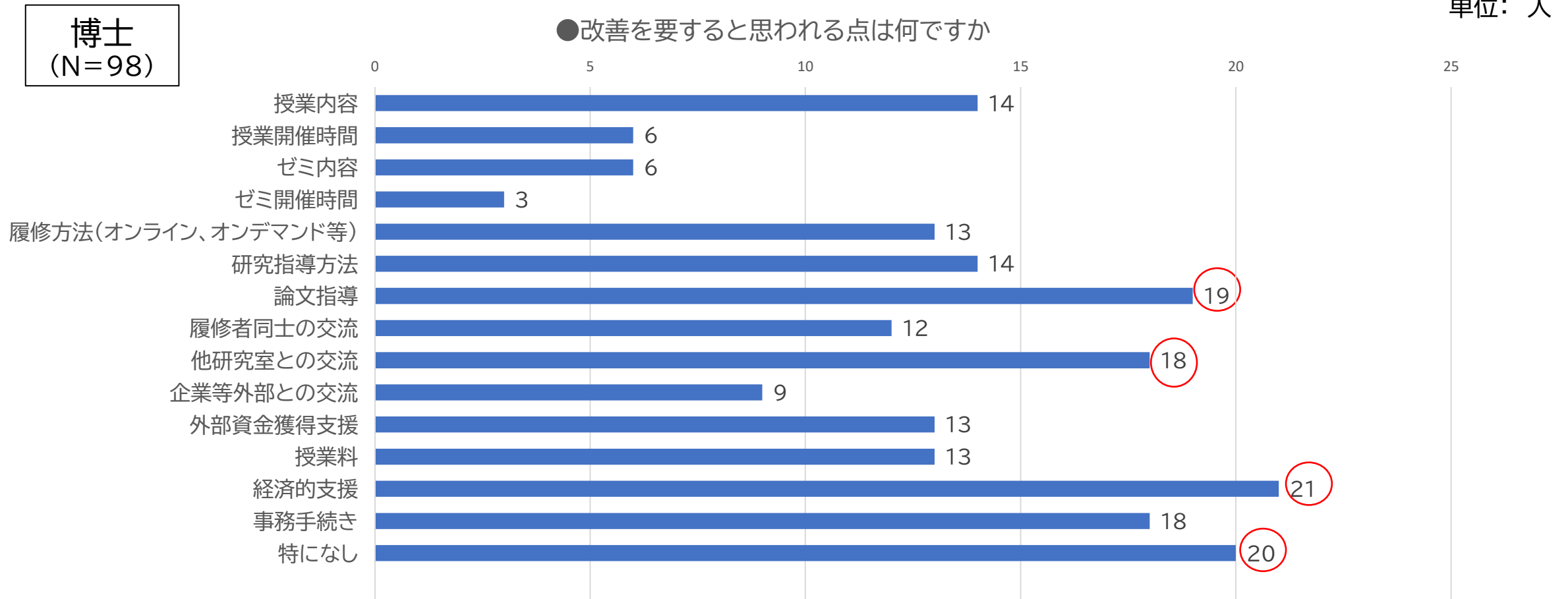
修士では、回答者の多くが働きながら経営学修士(MBA)の取得を目指していることから「実務に役立つ／実践的な学び／実務経験ある講師」の回答が多い。博士では「指導教員の素晴らしさ・丁寧な指導」、「専門性を高めることができた」等、研究や論文へのサポートが満足度に大きく貢献していると推察される。また修士・博士とも「学びに加えて、ゼミ仲間、新たな人脈ができた」が上位に挙がっており、ともに学ぶ仲間の存在や終了後も続く人脈ができたことが満足度に大きく影響することがわかる。

改善を要すると思われる点:修士 (複数回答可)



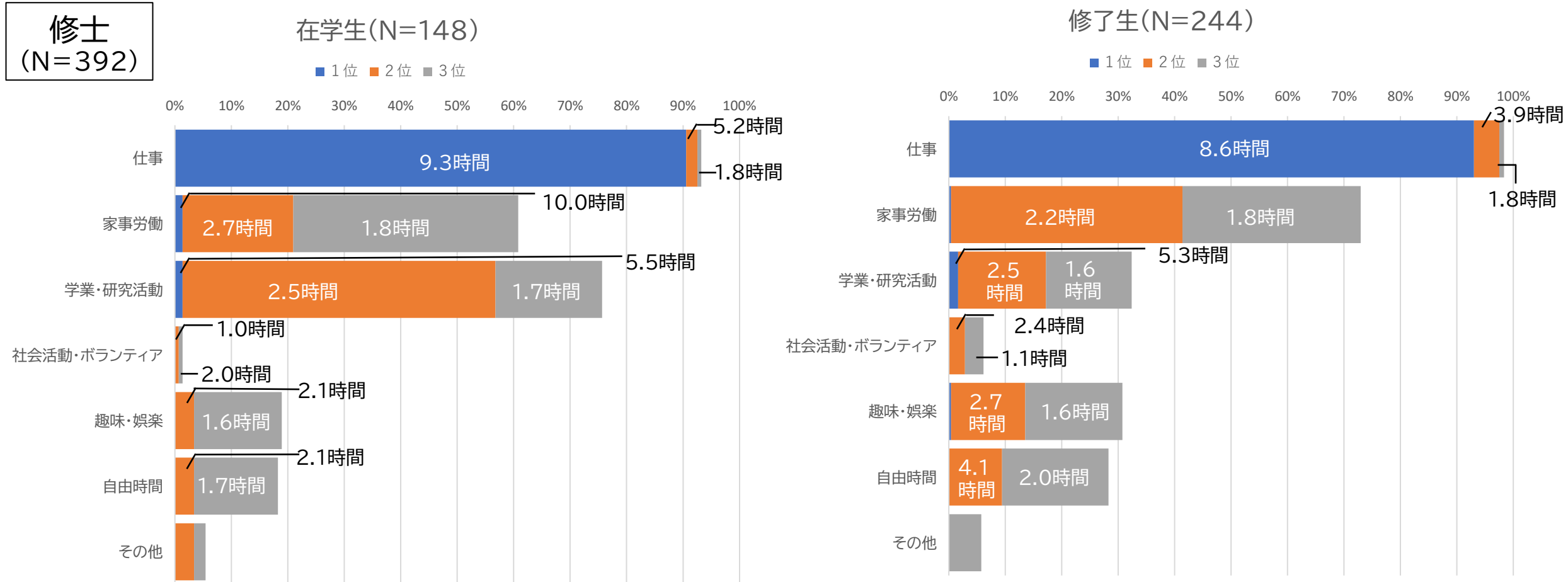
最も多いのは「特になし」の回答である。次に「授業料」「経済的支援」の回答が多い。
「企業等外部との交流」も多い。

改善を要すると思われる点:博士 (複数回答可)



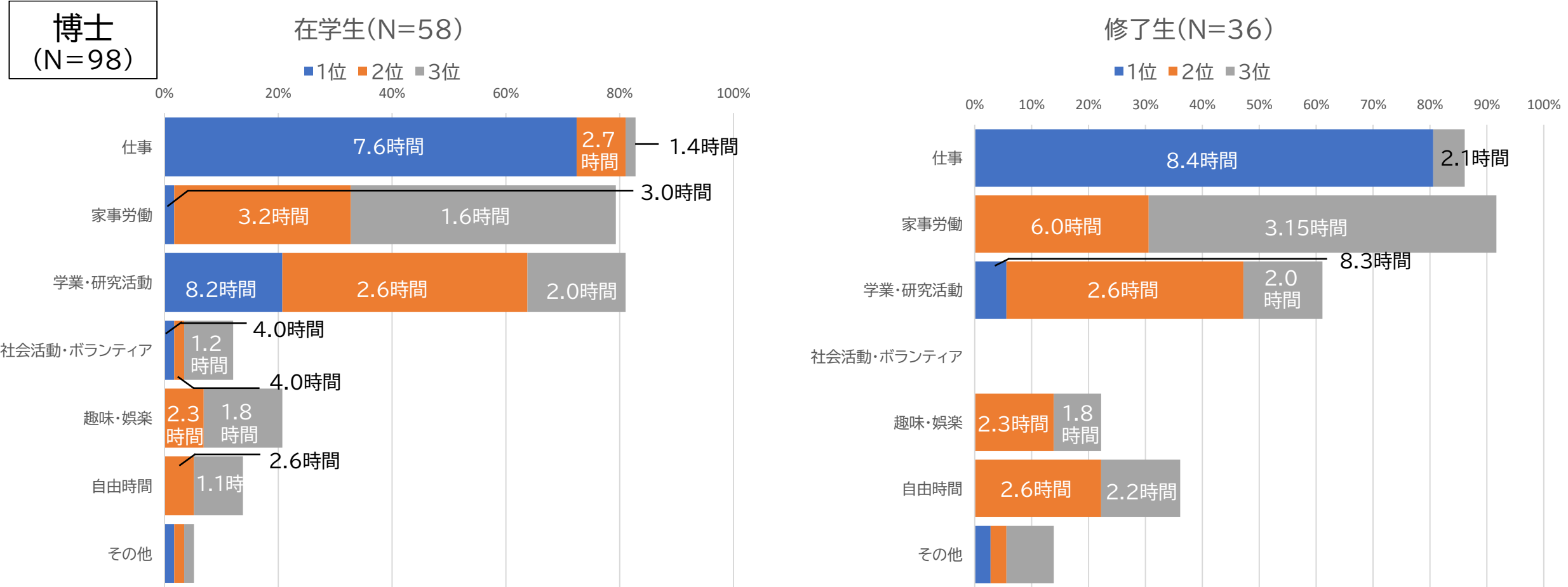
「経済的支援」の改善を求める回答が最多であり、次に「特になし」が多い。
「論文指導」「他研究室との交流」についての改善を求める回答も多い。

活動時間の使い方



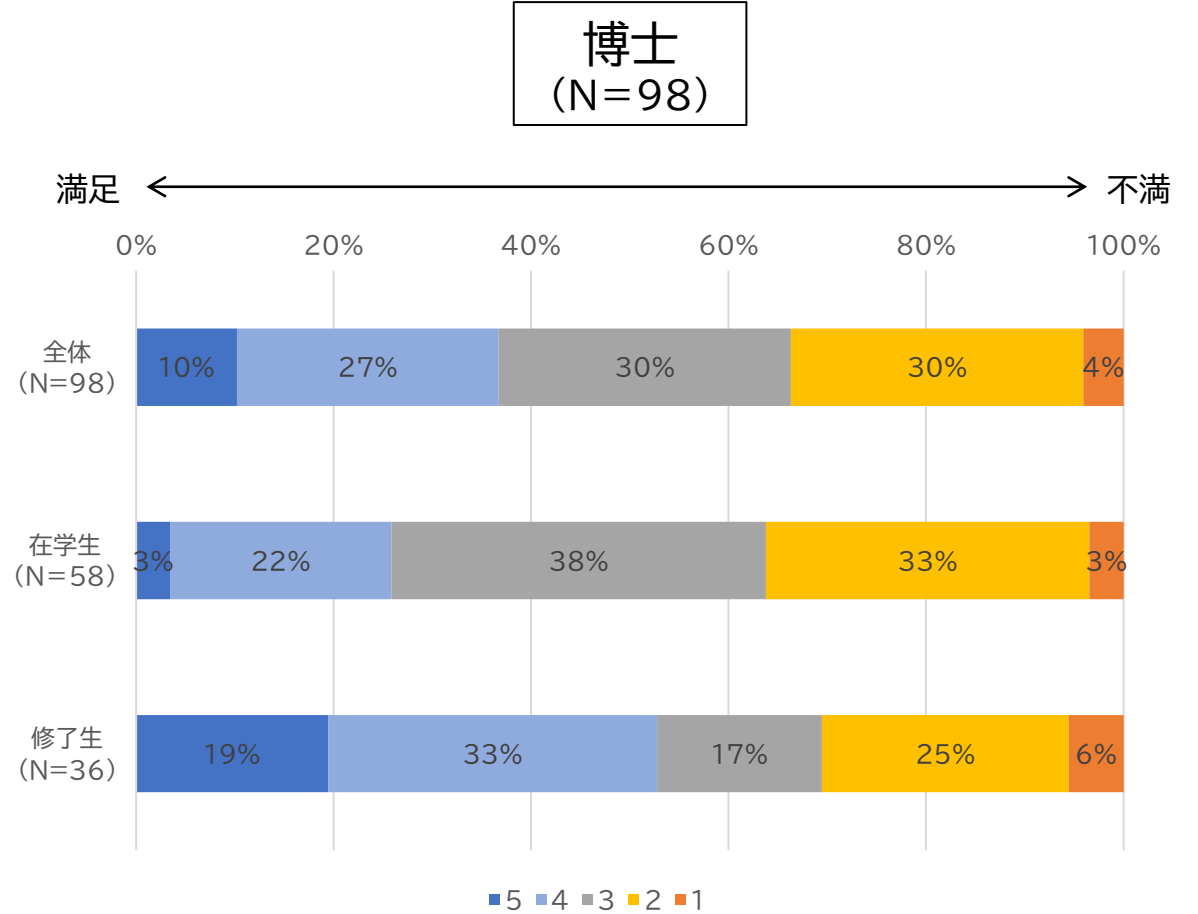
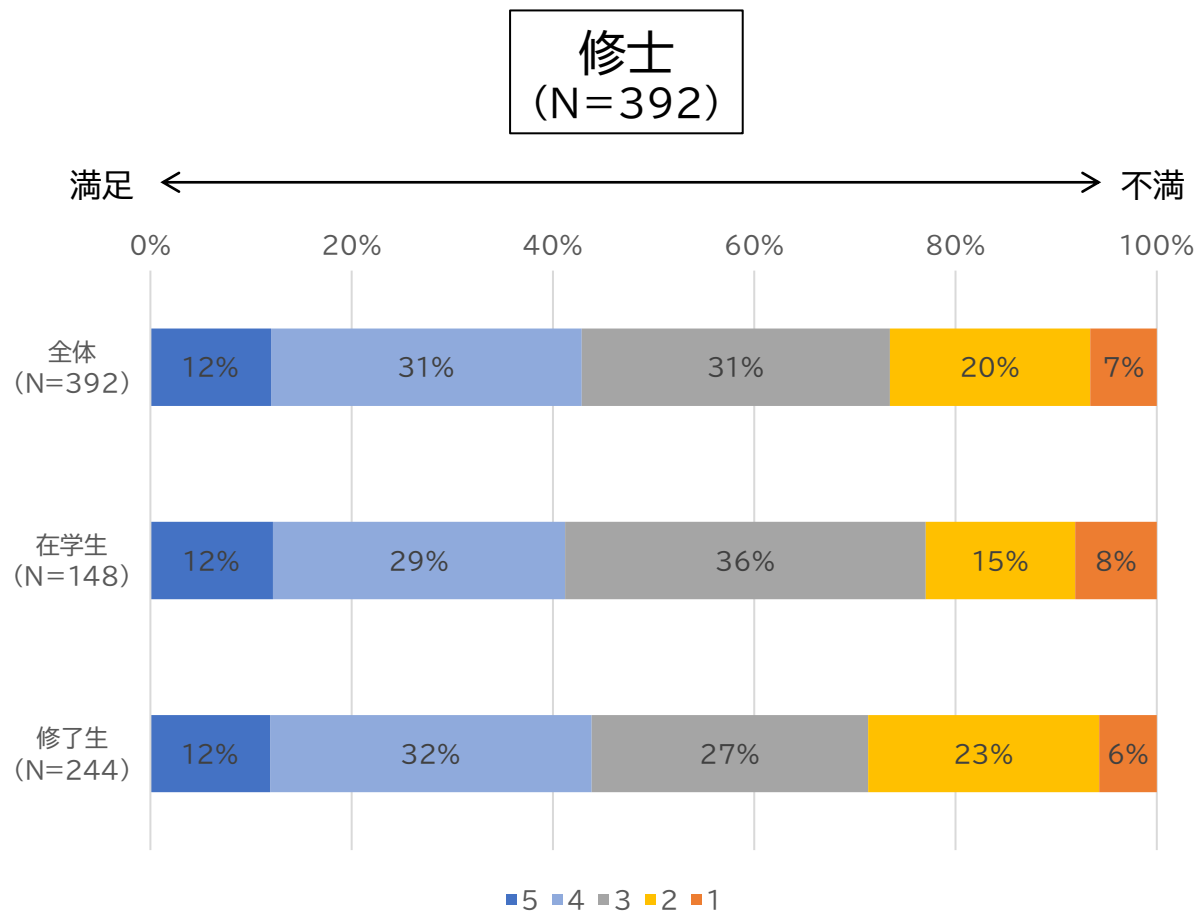
在學生／修了生とも、時間を費やしている時間の1位は「仕事」で90%以上を占めている。在學生の2位は「学業・研究活動」、修了生の2位は「家事労働」となっているが、「家事労働」にかけている時間は、あまり変わらない。在學生は「趣味・娯楽」や「自由時間」を削ることで「学業・研究活動」の時間を確保していると考えられる。

活動時間の使い方



在學生／修了生とも、時間を費やしている時間の1位は「仕事」であり、在學生で70%以上、修了生で80%を占めている。在學生、修了生とも2位は「学業・研究活動」「家事労働」が続く。修士同様、在學生は「趣味・娯楽」や「自由時間」を削ることで「学業・研究活動」の時間を確保していると考えられる。

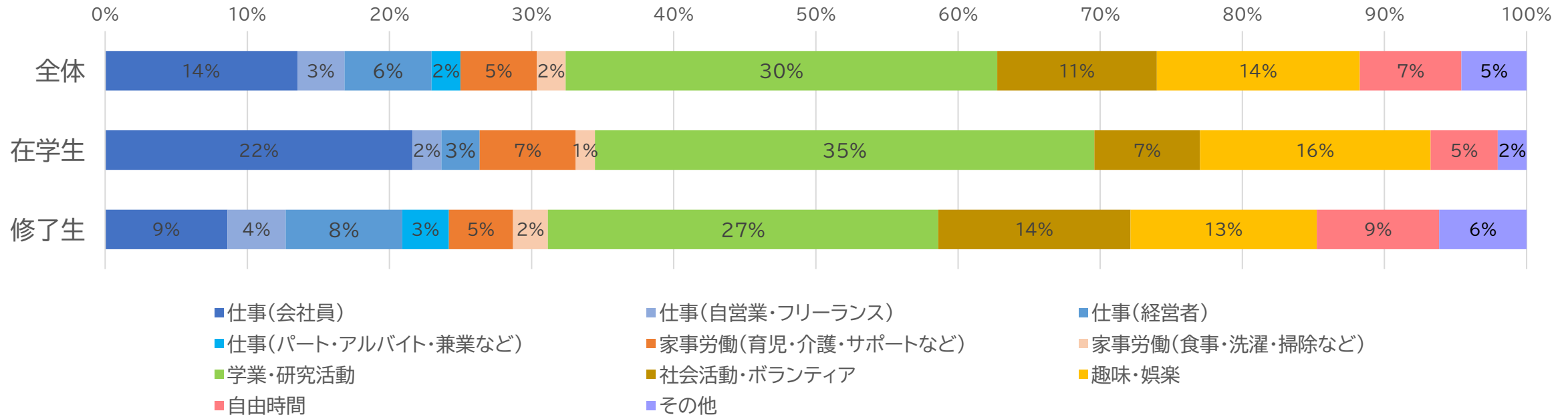
活動時間の使い方についての満足度



修士では、在學生、修了生とも40%程度がプラス回答だが、修了生の30%がマイナス回答である。
博士では、在學生のプラス回答が低く、ニュートラル・マイナス回答で7割を超える。働きながら学業・研究活動が続ける困難さがうかがえる。

今よりも充実させたい活動

修士
(N=392)

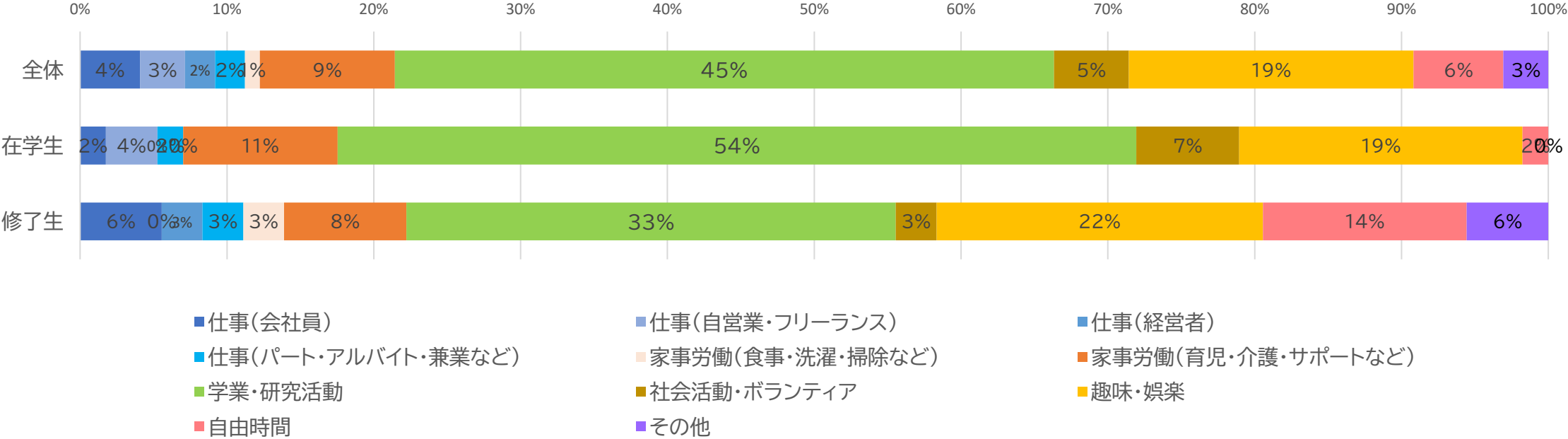


在学生では、「学業・研究活動」35%、「仕事合計」27%であり、働きながら学業を続けることの困難さがうかがえる。

修了生では、仕事・学業以外の「社会活動・ボランティア」「趣味・娯楽」「自由時間」を充実させたいとの回答が増えるが、終了後もなお27%は「学業・研究活動」を充実させたいと答えている。

今よりも充実させたい活動

博士
(N=98)

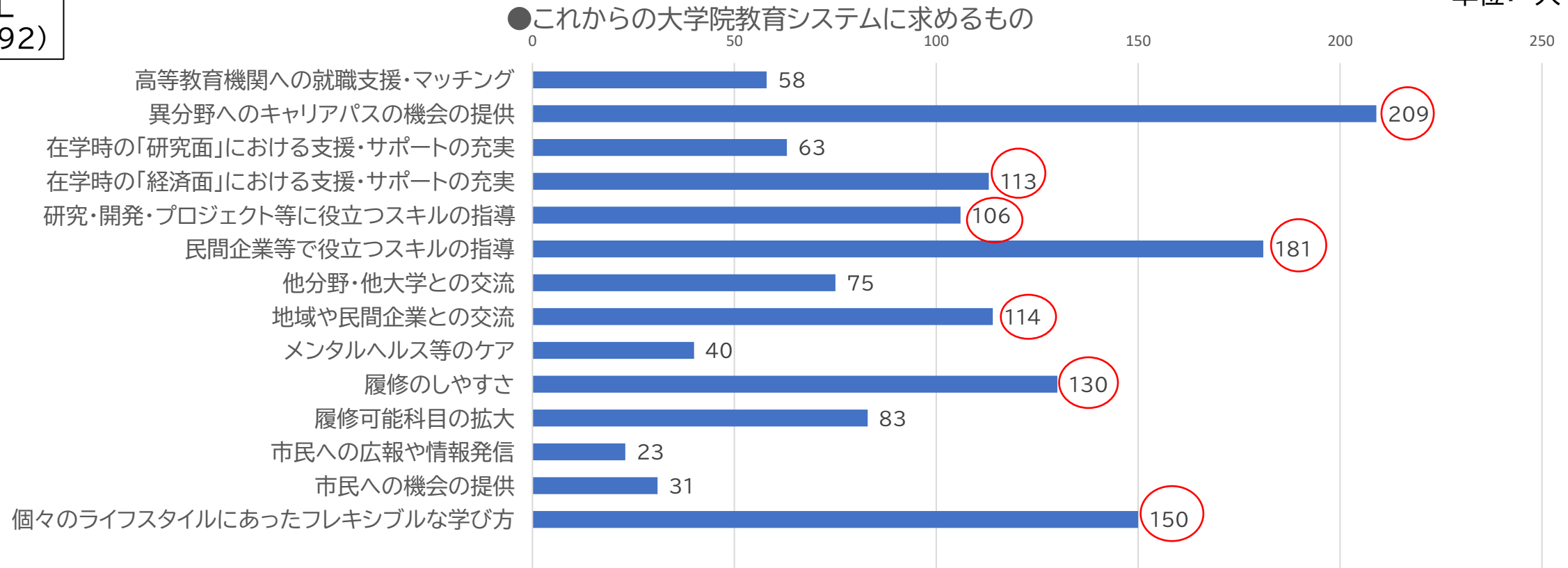


在学生の54%が「学業・研究活動」を充実させたいと回答しており、仕事を続けながらでは「学業・研究活動」に時間をかけたくてもかけられないという思いがここでも表れている。

これからの大学院教育システムに求めるものは？（複数回答可）

修士
(N=392)

単位：人



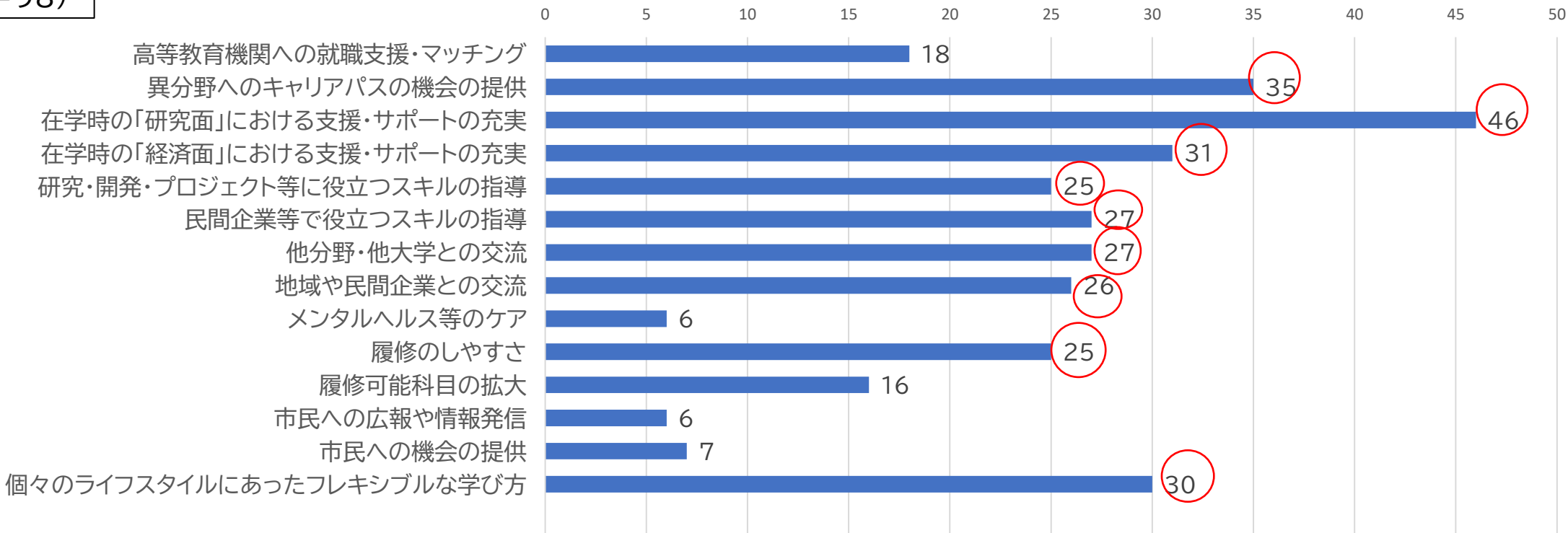
「異分野へのキャリアパスの機会の提供」「民間企業で役立つスキルの指導」の回答が多いことから、キャリアアップやキャリアチェンジへの支援の強化が求められているといえる。次いで「個々のライフスタイルに合ったフレキシブルな学び方」「履修のしやすさ」「在学時の「経済面」における支援・サポートの充実」が多くなっていることから、個々のライフスタイルに合わせた学び方への対応の要望も多い。また「研究・開発・プロジェクト等に役立つスキルの指導」「地域や民間企業との交流」など、より実践につながる学びを求めていることがうかがえる。

これからの大学院教育システムに求めるものは？（複数回答可）

博士
(N=98)

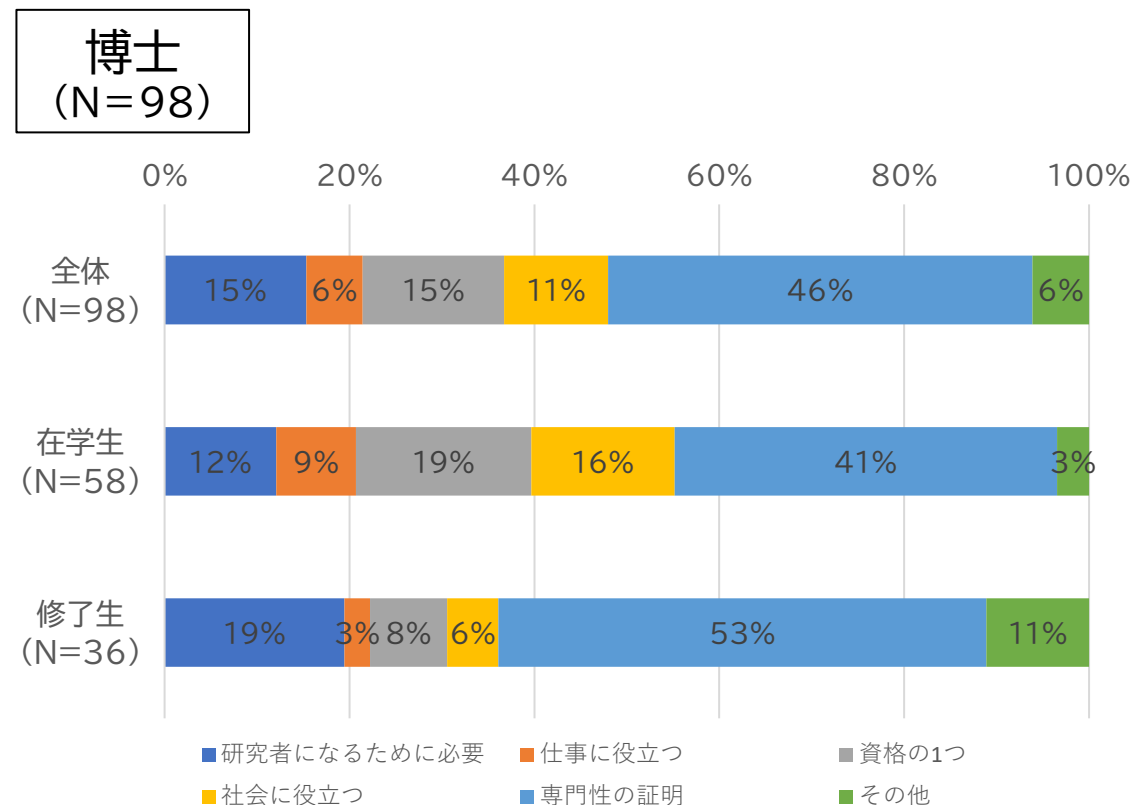
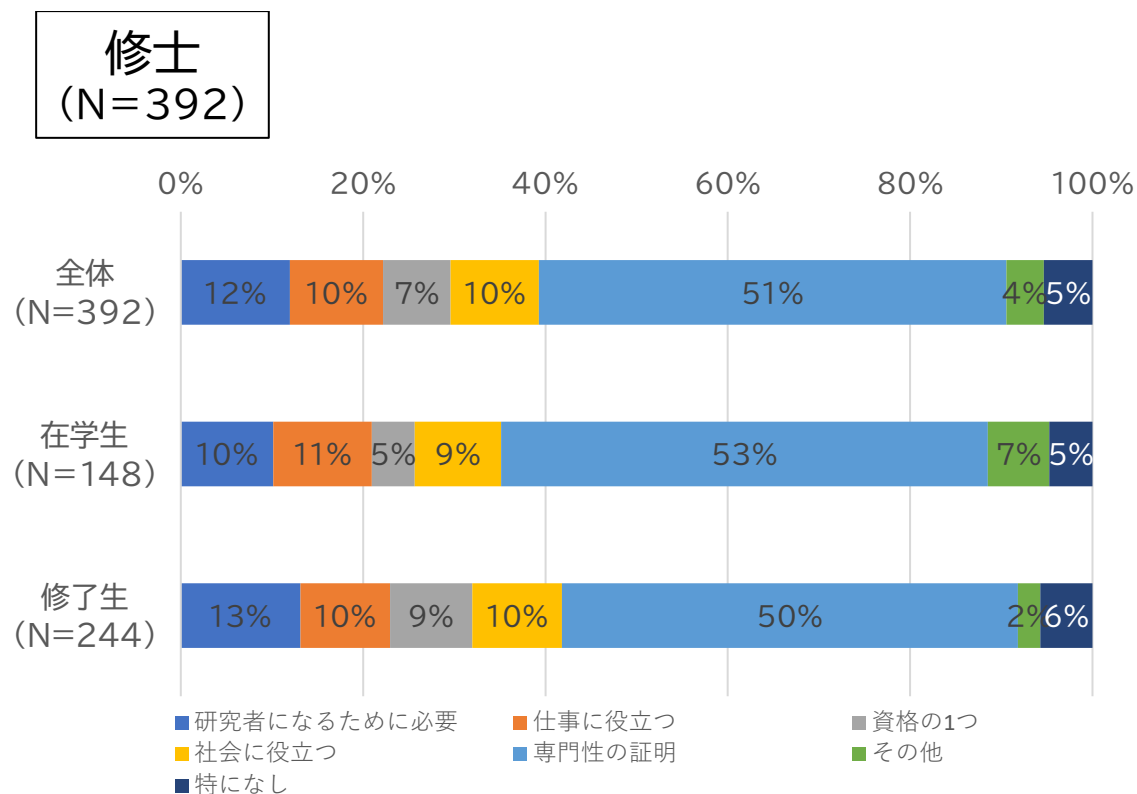
単位：人

●これからの大学院教育システムに求めるもの



「在学時の「研究面」における支援・サポートの充実」が最多となっており、次いで「異分野へのキャリアパスの機会の提供」「在学時の「経済面」における支援・サポートの充実」「個々のライフスタイルにあったフレキシブルな学び方」と続いている。「高等教育機関への就職支援・マッチング」より「異分野へのキャリアパスの機会の提供」が多くなっていることから、キャリアアップだけでなくキャリアチェンジの志向がうかがえる。「研究・開発・プロジェクト等に役立つスキルの指導」「民間企業等で役立つスキルの指導」「他分野・他大学との交流」「地域や民間企業等との交流」など、大学での学びが多方面に開かれていくことを求めていると推察される。

「博士」の価値をどうとらえていますか？



修士、博士とも、回答者の約半数が「専門性の証明」ととらえているが、修士のほうが博士の価値を「専門性の証明」ととらえてる割合が多い。博士の在学生では次いで「資格の一つ」「社会に役立つ」という回答も2割弱みられる。博士の修了生で「専門性の証明」の回答が1割以上増えるが、専門性が身についたことを自身で実感できたからと推察される。

「博士」の価値は？

●【博士号取得者のみ回答】

あなたが【博士】を取得したことで周りに与えた影響や、周りからの見方・対応について変化があれば教えてください。（正負どちらも可）

【正の変化】

●専門性の証明になる／研究者として信用が得られた

- ・周囲から専門性があるとみられる／専門家として見てもらえる
- ・専門性とロジックがしっかりしていると見られている
- ・有識者として扱われる
- ・大学外の方から専門家として見られることが多くなった
- ・博士取得後、金融機関に転職したため、その肩書自体に意味を持つようになった。技術バックグラウンドであることが証明できる。
- ・研究職として自立性を持つて働くには必須の資格であり、一定認められたが、それ以外の職種においてはそれほど必須ではなく、実際の業務におけるスキルの方が重要
- ・職場の環境であえて主張することはないので、その影響についてはわからないが、社会人となった息子においては、実社会の経験のある一定期間過ごした後、大学での専門的な知識の習得をしたいという考え方にはなっているようだ

●一目置かれる／地位・権威が高まった

- ・社会的地位がやや上がったと感じる。
- ・権威がついた
- ・サラリーマン相手には価値が伝わらないが、学会発表では博士号を持っていない教授達から一目置かれるようになった
- ・博士号を取得していることで国内外の仕事のパートナーから褒めていただく経験あり。
- ・PhD、MBAは希少性が高く、スタートアップの人と話をする際に、信用が得られやすい。
- ・努力出来る人間と志ある人間と周りでは評価してると思います
- ・良い意味で発言内容に信頼性を与える影響がある

●特に海外からの評価が高い

- ・社外特に海外の研究者が同等に扱ってくれるようになった。
- ・一定の信用がある。ただし、国内取得者と海外取得者で、イメージが違う。海外の方が留学経験も含まれるため、上のイメージ
- ・対外的な交渉において、名刺にタイトルを書くように言われる。特に、技術的な議論が必要な場において、博士の肩書が必要となる場合がある（特に海外企業）。
- ・海外の方からは無条件で評価が高くなる、国内では相手に変なプレッシャーを与えてしまう
- ・私は海外の大学院で博士号取得予定（2025年2月）ですが、すでに、日本の大学の大学院から、関連分野の論文査読や審査などのお仕事の依頼があります。おそらくそれは、博士号を持っていることが専門性の証明になっているのではないのでしょうか

●視点・視座が変わった／自分自身の自信につながった

- ・ひとつの客観的な視点をもっていることの証明になる
- ・視座が高まった、意見や提言をするようになった、問題解決能力が高まった
- ・自分自身考え方が変わった
- ・大きく変わったことはありませんが、研究者として一人前にみられていることを自覚しなければならぬことや、ある意味、研究発表やアカデミックな場では、恥ずかしくない振る舞いをしなければならないと感じるところがある。
- ・社会人で仕事をしながら3年間で博士課程を修了できたことや、それを周囲の人が評価してくれることに対して自分自身への自信につながった

●その他

- ・専門修士の方から博士になる方法をアドバイスする機会が増えました
- ・大学院での体験に興味を持たれるようです。
- ・転職の際、有利となった。
- ・専門性が高まる半面、拡張性が狭くなる

「博士」の価値は？

【変化なし／負の変化】

●変化なし

- ・医学博士を取得していますが、特に自分自身、あるいは周囲からも変化はありません
- ・なし。日本では悪影響のほうが大きい
- ・周りに与えた影響を感じることはありません
- ・特に取得したから変わることはありません
- ・職場では博士が当たり前なので、特に変わったと思わない
- ・業務上ではあまり変化はない
- ・まったくない(評価されない場にいるので)
- ・特に変化はないように思える。
- ・博士取得がグローバルで研究のスタートラインになるためあって当たり前で影響はほとんどない
- ・今のところは、「頑張ったね」の評価のみ。
- ・「がんばった」という証明程度

●日本では変わり者？

- ・日本ではまだまだ変わり者とみられる風潮がある。
- ・取得は研究という運転免許を手に入れた初心者に代わりない。にも関わらず、一人前のように見られる。または変人扱い。
- ・信用を得たが、嫉妬も買った

●男性社会で評価されない

- ・オフィシャルにはリスクリングを推奨している会社にも拘らず、実態として人事やキャリアマネジメントに全く考慮されず、「関係ない」と言われたことが残念だった。女性活躍推進の提唱に対しても、流行りではなく実力で希望するキャリアの獲得を目指したが、日本企業において、未だ男性社会と言う実態は変化できていないことを実感し、企業がリスクリングを正しく評価するよう促していただきたい。

●【正の変化】として

- ・専門性の証明になる／研究者として信用が得られた
 - ・一目置かれる／地位・権威が高まった
 - ・特に海外からの評価が高い
 - ・視点・視座が変わった／自分自身の自信につながった
- といった内容の回答が多い。特に研究や技術開発分野ではポジティブに捉えられていることがわかる。また、日本よりも海外において博士号の価値は大いに評価されている。

- 一方で、「変化なし／負の変化」の回答も少なくはなく日本社会では博士号を取得していることを適切に評価できない、評価する指標といえるものがないことが示唆されているのではないかな。

まとめ

大学院教育に対する満足度

- 修士、博士とも、全体として「大変満足」「満足」と回答した者が多かった
- **修士**の自由回答では、回答者の多くが働きながら経営学修士(MBA)の取得を目指していることから「**実務に役立つ／実践的な学び／実務経験ある講師**」の満足度が高い
- **博士**の自由回答では、「**指導教員の素晴らしさ・丁寧な指導**」の回答が多く、研究や論文への指導・サポートが満足度に大きく貢献していると推察される
- また修士・博士とも「学びに加えて、ゼミ仲間等、新たな人脈ができた」の回答が多く、仕事の延長では得られにくい**多様な仲間と学び合い、修了後も続く人脈ができたことが満足度に大きく影響する**と考えられる
- 研究を中心した大学院ほどゼミ生・他の教員・他の学生との関わりが「なかった／少なかった」と回答した割合が高かった

活動時間の使い方

- 修士、博士とも、社会人は1日のおよそ3分の1(8時間)を「仕事」に費やしている
- 1日の3分の1の時間を食事・入浴や睡眠時間に必要だとすると、残りの3分の1の時間を「学業・研究活動」と「家事労働」に振り分けることになる
- 仕事場と家と大学の移動時間を考慮すれば、「学業・研究活動」と「家事労働」に費やせる時間の合計は6時間程度である
- 修士、博士とも、在学生と修了生を比較すると、「趣味・娯楽」「自由時間」を削ることで「学業・研究活動」の時間を確保している
- 博士・修了者で、「学業・研究活動」に時間をかけている割合が高く、修了後も研究への意欲が高いと考えられる

博士の価値と能力

- 博士の価値について、修士、博士とも「専門性の証明」という回答が大半を占めるが、特に修士のほうがそのようにとらえている割合が多い
- 博士の修了生では、在学生に比べて「専門性の証明」「研究者になるために必要」の回答の割合が増える。博士取得者の自由回答でみられるように、博士を取得したことによって、周囲から「信用・信頼」が得られたことを実感できたからだと推察される
- 一方で、博士を取得したものの「変化なし／負の変化」の回答も少なくはなく、日本社会では海外に比べて博士号を取得していることを適切に評価する指標がないことも示唆された
- 今回のトランスファラブルスキル調査の結果をふまえ、博士の能力の定義の検討が課題といえる

これからの大学院教育システムに求めるもの

- 修士、博士とも、「異分野へのキャリアパスの機会の提供」「民間企業で役立つスキルの指導」の回答が多いことから、**大学にとどまらないキャリアアップやキャリアチェンジへの支援の強化**が求められている
- また「個々のライフスタイルに合ったフレキシブルな学び方」「履修のしやすさ」「在学時の「経済面」における支援・サポートの充実」も、共通しており、**働きながら学業や研究を続けられる環境整備や経済的支援**が、より求められていることがわかる
- さらに「研究・開発・プロジェクト等に役立つスキルの指導」「他分野・他大学との交流」「地域や民間企業との交流」など、**大学での学びが多方面に開かれていくことが求められている**と推察される